

貯法：気密容器
直射日光を避けて室温保存
使用期限：容器等に表示
注意：「取扱い上の注意」の項参照

承認番号	23000AMX00139
薬価収載	2018年6月
販売開始	2018年7月
再評価結果	1982年8月

外用殺菌消毒剤

滅菌製剤

ポビドンヨード消毒液10%「ケネイ」

POVIDONE-IODINE DISINFECTANT SOLUTION 10%「KENEI」

【禁忌（次の患者には使用しないこと）】

本剤又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

〈組成〉

100 mL中 日局ポビドンヨード 10 g（有効ヨウ素1 g）含有。
添加物としてグリセリン、クエン酸水和物、リン酸水素2 Na、ラウロ
マクロゴール、pH調整剤を含有する。

〈性状〉

暗赤褐色の液で、特異なおいがある。滅菌製剤である。
比重 d_{20}^{20} : 約1.04 pH: 3.0～5.5

【効能・効果】 【用法・用量】

効能・効果	用法・用量
手術部位（手術野）の皮膚の消毒、 手術部位（手術野）の粘膜の消毒	本剤を塗布する。
皮膚・粘膜の創傷部位の消毒、熱傷 皮膚面の消毒、感染皮膚面の消毒	本剤を患部に塗布する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に使用すること）

- 甲状腺機能に異常のある患者¹⁾ [血中ヨウ素の調節ができず甲状腺ホルモン関連物質に影響を与えるおそれがある。]
- 重症の熱傷患者 [ヨウ素の吸収により、血中ヨウ素値が上昇することがある。]

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用

ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシー（呼吸困難、不快感、浮腫、潮紅、蕁麻疹等）（頻度不明）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^{注)}	発疹等
皮膚	接触皮膚炎、痒痒感、灼熱感、皮膚潰瘍、 皮膚変色
甲状腺	血中甲状腺ホルモン値（T ₃ 、T ₄ 値等）の 上昇あるいは低下などの甲状腺機能異常

注）症状があらわれた場合には、使用を中止すること。

3. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊娠中及び授乳中の婦人には、長期にわたる広範囲の使用を避けること²⁾。

4. 臨床検査結果に及ぼす影響

酸化反応を利用した潜血試験において、本剤が検体に混入すると偽陽性を示すことがある³⁾。

5. 適用上の注意

(1) 投与経路：経口投与しないこと。

(2) 使用時：

- 大量かつ長時間の接触によって接触皮膚炎、皮膚変色があらわれることがあるので、溶液の状態で長時間皮膚と接触させないこと⁴⁾。（本剤が手術時に体の下にたまった状態や、ガーゼ・シート等にしみ込み湿った状態で、長時間皮膚と接触しないよう消毒後は拭き取るか乾燥させるなど注意すること。）
- 眼に入らないように注意すること。
眼に入った場合には水でよく洗い流すこと。
- 深い創傷に使用する場合は希釈液としては生理食塩液か注射用水を用い、水道水や精製水を用いないこと。
- 石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、石けん分を洗い落してから使用すること。
- 電気的な絶縁性をもっているため、電気メスを使用する場合には、本剤が対極板と皮膚の間に入らないよう注意すること。

6. その他の注意

- 本剤を新生児に使用し、一過性の甲状腺機能低下を起こしたとの報告がある⁵⁾。
- ポビドンヨード製剤を腔内に使用し、血中総ヨウ素値及び血中無機ヨウ素値が一過性に上昇したとの報告がある⁶⁾。
- 本剤を妊婦の腔内に長期間使用し、新生児に一過性の甲状腺機能低下があらわれたとの報告がある⁷⁾。
- ポビドンヨード製剤を腔内に使用し、乳汁中の総ヨウ素値が一過性に上昇したとの報告がある⁸⁾。



【薬効薬理】

- (1) ポビドンヨードは、栄養型細菌（グラム陽性菌、グラム陰性菌）、結核菌、真菌、一部のウイルスに有効である。
 (2) ポビドンヨード消毒液 10%「ケンエー」の殺菌効果（*in vitro*）⁹⁾

供試菌株	殺菌時間*		
	clean条件	dirty条件 (2%酵母添加)	dirty条件 (0.2%アルブミン添加)
<i>Staphylococcus aureus</i> NBRC 12732	≦ 15 秒間	≦ 15 秒間	≦ 15 秒間
<i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA-01)	≦ 15 秒間	60 秒間	≦ 15 秒間
<i>Staphylococcus epidermidis</i> ATCC 12228	≦ 15 秒間	≦ 15 秒間	≦ 15 秒間
<i>Escherichia coli</i> NBRC 3806	≦ 15 秒間	30 秒間	≦ 15 秒間
<i>Proteus vulgaris</i> NBRC 3988	≦ 15 秒間	≦ 15 秒間	≦ 15 秒間
<i>Pseudomonas aeruginosa</i> NBRC 13275	≦ 15 秒間	≦ 15 秒間	≦ 15 秒間
<i>Burkholderia cepacia</i> NBRC 15124	≦ 15 秒間	≦ 15 秒間	≦ 15 秒間
<i>Serratia marcescens</i> NBRC 12648	≦ 15 秒間	≦ 15 秒間	≦ 15 秒間
<i>Candida albicans</i> NBRC 1594	≦ 15 秒間	30 秒間	≦ 15 秒間

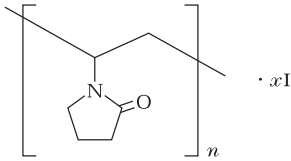
* 99.999%以上の減少に要した時間

〈生物学的同等性試験〉¹⁰⁾

ポビドンヨード消毒液 10%「ケンエー」と標準剤の殺菌効果について、*in vitro*の最小発育阻止濃度（MIC）法及びKelsey-Sykes法により比較した結果、両剤の生物学的同等性が確認された。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：日局ポビドンヨード（Povidone-Iodine）
 化学名：Poly [(2-oxopyrrolidin-1-yl) ethylene] iodine
 分子式：(C₆H₉NO)_n · xI
 構造式：



性状：ポビドンヨードは、暗赤褐色の粉末で、わずかに特異なおいがある。
 水又はエタノール（99.5）に溶けやすい。
 本品 1.0 g を水 100 mL に溶かした液のpHは 1.5 ～ 3.5 である。

【取扱い上の注意】

- 〈注意〉
 (1) 本剤は外用剤であるので、経口投与、吸入、注射、眼及び体腔内（腹腔内、胸腔内等）に使用しないこと。
 (2) 衣類に付いた場合は水で容易に洗い落せる。また、チオ硫酸ナトリウム溶液で脱色できる。
 (3) 開封時及び開封後は、微生物による汚染に注意すること。
 (4) 本剤は滅菌製剤のため、開封後は速やかに使用すること。
 〈安定性試験〉¹¹⁾
 最終包装製品を用いた加速試験（40℃、75%RH、6ヶ月）の結果、通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

【包 装】

50 mL × 20、250 mL、250 mL（丸ポリ）、500 mL

【主要文献】

- 1) 石突吉持：日本医師会雑誌 97（7）：1247-1250, 1987.
- 2) Danziger, Y., et al.：Arch. Dis. Child. 62：295-296, 1987.
- 3) Bar-Or, D., et al.：Lancet（8246）：589, 1981.
- 4) Okano, M.：J. Am. Acad. Dermatol. 20（5）：860, 1989.
- 5) Jackson, H. J., et al.：Lancet（8253）：992, 1981.
- 6) Vorherr, H., et al.：JAMA 244（23）：2628-2629, 1980.
- 7) 大塚春美 他：日本新生児学会雑誌 30（4）：765, 1994.
- 8) 北村隆 他：Prog. Med. 7（5）：1031-1034, 1987.
- 9) 健栄製薬株式会社 社内資料：ポビドンヨード消毒液 10%「ケンエー」の殺菌効力について
- 10) 健栄製薬株式会社 社内資料：ポビドンヨード消毒液 10%「ケンエー」の生物学的同等性について
- 11) 健栄製薬株式会社 社内資料：ポビドンヨード消毒液 10%「ケンエー」の経時安定性について

【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。
 健栄製薬株式会社 学術情報部
 〒541-0044 大阪市中央区伏見町2丁目5番8号
 電話番号（06）6231-5626
 FAX番号（06）6204-0750

